



がん登録の現場から

専門医による診療の質向上 最善を追求し 寄り添う医療を

呼吸器内科の平野勝也医師は、大阪府がん診療連携協議会 がんゲノム医療推進部会に携わり、肺がんを中心にがん薬物療法と緩和ケアの充実に尽力。化学療法委員会では治療計画（レジメン）の審査・管理を担い、最新のエビデンスに基づく治療選択を支援。診断から薬物療法、緩和ケアまで一貫して患者さんに寄り添い、診療録を丁寧に記載することで、情報を正確に共有し、よりよい医療の提供に貢献しています。



呼吸器内科 平野勝也医師



呼吸器内科では、肺がんをはじめ、気管支喘息やCOPDなど幅広い疾患に対応。肺がんの治療では、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的薬を活用し、個々の患者に適した治療法を提供。気管支喘息では、呼気NO検査を活用し、気道炎症を評価して最適な吸入療法を選択。COPD診療では、呼吸機能検査を通じて病状を把握し、早期診断・治療介入を積極的に行っています。

<https://minamiosaka.or.jp/dep-div/dep-div-1568/>

患者さんに寄り添った 医療の提案

化学療法はがん治療の重要な柱のひとつです。当院では、患者さん一人ひとりの状態に応じ、科学的根拠に基づいた治療と丁寧なケアを両立しています。化学療法委員会では治療計画（レジメン）や薬剤の妥当性を評価し、平野勝也医師がその要として、治療の質と安全性の確保を担っています。2023年は肺がん登録95件のうち21名が初回治療として化学療法を受け、寄り添ったサポートを展開。“その人らしさ”を尊重した医療の実現をめざし、市民講座などを通じて地域への啓発活動にも力を注いでいます。



がん登録を支える診療情報管理士

診療情報管理士は、患者さんの診療記録を適切に管理し、医療の安全と質の向上に貢献する専門職です。電子カルテを活用し、診療情報を整理・分析することで、精度の高い医療の提供を支えています。また、院内がん登録の情報管理を通じて、がん診療の質を高め、医療を支え、未来へつなぐ情報の架け橋となっています。「確かな情報が患者さんの未来をひらく」その想いを胸に、日々業務に取り組んでいます。

診療情報管理士/院内がん登録実務中級者認定 梅本 一美

がん登録

